

## 施設内容調書

### 施設要件 (以下 該当項目にチェックすること)

日本循環器学会認定循環器専門医が 3 名以上在籍すること。

日本心血管インターベンション治療学会認定医、または専門医、もしくは名誉専門医 が 3 名 以上在籍すること。

日本超音波医学会認定超音波専門医 (日本循環器学会認定循環器専門医ないし心臓血管外科専門医を有する者に限る)、日本周術期経食道心エコー (JB-POT) 認定試験合格者、ないし日本心エコー図学会が認証している「SHD 心エコー図認証医」が 1 名以上在籍すること。

心臓血管外科専門医が 1 名以上在籍し、遅滞なく緊急開胸手術の実施が可能な施設であること。

日本循環器学会の循環器専門医研修施設であること。

日本心血管インターベンション治療学会の認定研修施設であること。

心臓血管外科専門医認定機構の基幹施設ないし関連施設であること (新基準では「心臓基幹」または「心臓関連」施設であること)。

日本脳卒中学会専門医が 1 名以上在籍する脳卒中学会認定研修教育施設であり、定期的な Brain-Heart Team による協議が行われていること。脳卒中の診療科を有さない循環器専門施設の場合は、近隣の脳卒中学会認定研修教育施設と文書による診療連携を確立し、定期的な Brain-Heart Team による協議が行われていること。

左房内にアクセスする手技治療 (経中隔アプローチ) の実施施設であり、常勤の術者が実施していること (ただし、症例数は問わない)。※1 経中隔アプローチの定義参照

日本心血管インターベンション治療学会が実施する「経皮的卵円孔開存閉鎖術研修プログラム」を受講し、本手技の目的と内容を習熟した担当医が 2 名以上在籍すること

先天性心疾患あるいは構造的な心疾患に対しての経食道心エコー検査を年間 100 例以上実施している。

Brain-Heart Team による潜在性脳梗塞に対する卵円孔開存診断を目的としたバブルスタディー (経胸壁心臓超音波、経食道心臓超音波、経頭蓋超音波) を年間 25 例以上実施していること。

全身麻酔ができ経食道心エコー図もしくは心腔内心エコー図が実施可能なカテーテル室、ハイブリッド手術室を有する。

医療安全研修が行われている。

実施症例の CVIT J-SHD レジストリーへの全例登録を確約すること。

### ※1 経中隔アプローチの定義

経皮的僧帽弁接合不全修復術、経カテーテル的左心耳閉鎖 (LAAO)、経皮的心房中隔欠損閉鎖術、心房細動アブレーション、経皮的僧帽弁交連裂開術 (PTMC)、順行性経皮の大動脈弁形成術 (Antegrade BAV)

※2 小児循環器施設申請の場合

- 1) こども病院もしくは小児科のみが心房中隔治療を行う総合病院（卵円孔開存閉鎖術治療未導入）の場合

ASD 閉鎖治療認定施設且つ少なくとも 25 症例以上の経皮的 ASD 閉鎖治療実績がある

卵円孔開存診断を目的としたバブルスタディーが 3 例/年以上実施されている

脳卒中専門医 1 名＋循環器専門医 1 名以上を含む院内 Brain-Heart Team（もしくは当該地域で脳卒中連携した病院の脳卒中専門医をメンバーとする）が在る

- 2) 循環器内科が卵円孔開存閉鎖術を実施している総合病院の小児例の場合

JCIC 学会認定の ASD 閉鎖治療認定施設であること